

**【授業評価アンケートの変更】**

教育課程実践モデル事業の今年度の取り組みの一環として、授業評価アンケートを大幅に変更しました。また、これまで各先生方にアンケートを手入力していただいていたが、SQSによるマークシート方式に変更することとし、集計・分析を省力化しました。用紙の作成から集計までを、本年度松江東高校に配置された業務アシスタントにさせていただくことで、先生方の負担も大幅に減り、そのことでPDCAサイクルを回すことに集中することができるようになりました。

**松江東高校 授業評価アンケート**

このアンケートは、これからの社会で求められる資質・能力、本校が目指す力が授業をとおして育成されているかを測るためのものです。今学期の授業全体を振り返って評価をしてください。真摯な態度で以下のアンケートに回答してください。

**本校の育てたい生徒像**

自分らしいライフデザインの実現をめざす生徒

**教育目標（3つの力の育成）**

- (1) 人とつながって生きる力を向上させる（高まっていく人間力）
- (2) 自己の未来を切り拓いていく力を向上させる（向かっていく学力）
- (3) 地域社会の今と未来に関わる力を育成する（広がっていく社会力）

**具体的な姿**

生徒同士でお互いに質問し合えるような力を身につけ、対話的な学びによって理解が深まり、良い意見を主体的に考え、活動できる力を備えた生徒

以下が、アンケート項目です。これまでの授業評価アンケートと同じように見えますが、先生方にアクティブラーニング型の授業を積極的に実践してもらい、本校の教育課程実践モデル事業でめざす「生徒同士がお互いに質問し合えるような力を身につけ、対話的な学びによって理解が深まり、良い意見を主体的に考え、活動できる力を備えた生徒」の育成が図れるよう、ねらいを明確にして変更しました。

具体的にはルーブリックを意識してアンケートの質問内容を見直しました。ルーブリックは、生徒の学習到達状況を評価するための評価基準表のことであり、段階的に具体的な姿を示すことが必要です。また、子どもたちにも理解できる言葉に置き換えて、授業の際に明確に提示することも必要です。今回作成した授業評価アンケートにより、教員と生徒の間で「主体的・対話的で深い学び」についての認識が共有され、そのことが授業改善につながると考えています。

**【生徒による自己評価】**

- 1 私は授業に意欲的・積極的に取り組んでいる。
- 2 私は宿題や課題提出にきちんと取り組んでいる。
- 3 私は自分の考えを根拠や理由を明らかにして相手に伝えることができる。
- 4 私は疑問点や分からないことを、そのままにせず自分で調べるなどをして理解できるよう心掛けている。
- 5 私は他の生徒や教員に質問するなどをして、学習内容の理解がさらに深まったり、新たな気づきが生まれたりすることにつながる対話をしている。
- 6 私は授業をとおして自己の未来を切り拓いていく力を向上させている。

**【授業評価】**

- 1 授業の中で、めあてや目標が示されている。
- 2 授業の中で、自分の考えや意見を表現する機会がある。(ペア、グループ活動や板書を含む)
- 3 授業の中で、他の生徒や教員に質問したり、調べたりする機会がある。
- 4 授業を受けることで、この科目に関する興味や関心が深まる。
- 5 授業担当教員から学習や思考が深まるような問いかけがある。
- 6 授業担当教員から社会とのつながりが意識された材料が提供されることがある。
- 7 授業をとおして何が分かり、何ができるようになったかを振り返る機会がある。

**【教育課程モデル事業に関わる研究授業】**

7月20日(金)に開催予定の教育課程実践モデル事業に関わる研究授業及び教員研修、今年度第1回の運営指導委員会に先立ち、今年度新たに研究担当者になった伊藤尚史主幹教諭による研究授業が7月11日(水)6限にありました。

6月29日(金)に出雲で開催された「生徒の学ぶ力を引き出す授業デザイン」研修会の成果を活かして、北方領土を題

材に、知識構成型ジグソー法による授業をされました。「題材に向き合い、次にみんなで考え、最後は自分の考えを深める(自分と向き合う)」という流れを明確にした授業実践で、ワークシートも、「北方領土問題を平和的に解決するにはどうしたらよいか」について、授業の最初とグループ活動時と振り返りの3回同じテーマで記述させる中で、自分の考えの変化にも気づけるように工夫されていました。

なお、授業者が考える「主体的・対話的で深い学び」の視点については、次のように記載されていました。

「主体的・対話的で深い学びは、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養を実現させるものであると考える。また、その実践により、授業改善やカリキュラムマネジメントに向けた取組が活性化すると考える。」

次が本時の学習指導案(略案で転載)となります。

(1) 目標

固有の領土である北方領土に関し、未解決の問題が残されていることをふまえ、資料から、北方領土問題の現状に至る経緯、我が国が平和的な手段による解決に向けて努力していることについての情報を正確に読み取る。そのうえで、平和的な解決方法を思考・判断し、問題解決のために自分たちができることや持ち続けるべき態度について表現する。【思考・判断・表現】

(2) 展開

時間	生徒の学習活動	教師の活動と支援	評価
10分	〈導入〉 北方領土問題を平和的に解決するにはどうしたらよいか各個人で考え、意見を書く。	根拠を示して北方領土が日本の固有の領土であることと、現在ロシアに不法占拠されていることを説明する。	ワークシート 【思考・判断・表現】
10分	〈エキスパート活動〉 A・B・Cのグループの資料を読み込み、話し合いを通じて各課題に取り組む。 《Aグループ》 旧ソ連が占拠した状況と元島民の思いについてまとめる。 《Bグループ》 第二次世界大戦後の外交交渉の経過についてまとめる。 《Cグループ》 北方領土の現状についてまとめる。	エキスパート資料の読み取りが適切に行われているか、机間巡視して確認する。	
15分	〈ジグソー活動〉 席を移動したうえで、各ジグソーグループでまとめた内容を説明しあって、班の意見をまとめる。	各エキスパートの説明後、北方領土問題を平和的に解決するにはどうしたらよいか、班の意見をまとめさせる。	
10分	〈クロストーク活動〉 各班の代表者が意見を発表し、それをクラス全体で共有する。	各班の代表の発表をクラス全体で確認できるように静かにさせる。	
5分	〈まとめ〉 北方領土問題を平和的に解決するにはどうしたらよいか、本時の活動をふまえたうえで考え、意見を書く。	本時の活動で出てきた他の生徒の意見を自分の意見に活かすよう指示する。	ワークシート 【思考・判断・表現】

(3) 評価

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する生徒への支援
北方領土問題の解決について、自ら解決しようという意欲を持って具体的な意見を適切に表現している。	北方領土問題の解決策について、一般的な意見を適切に表現している。	配付した資料について、理解しにくい言葉や内容について説明する。ワークシートに自分の考えを記述するよう促す。